

【要請署名】 議員立法での再審法改正を求めます

事件から40年を経て再審無罪をかちとった福井女子中学生殺人事件の
前川彰司さん（2025年7月18日 名古屋高裁金沢支部前）

あなたの一筆が 冤罪をなくす力

署名にご協力をお願いします

やってもいない犯罪で処罰される冤罪事件が、後を絶ちません。間違った裁判をやり直す再審制度がありますが、欠陥だらけで機能不全です。いま、きちんと無実の人が救済されるよう、国會議員連盟が法案をつくり国会に提出しています。一方、法務省は法制審議会を立ち上げて、今よりも再審の要件を狭めようとしています。議員連盟が提案した案で再審法改正を実現させるため、ご協力をお願いします。

議員連名が提出した法案4つのポイント



署名用紙はホームページからダウンロードできます



袴田事件判決直前におこなわれたイベント「今こそ変えよう！再審法～カウントダウン袴田判決～」は、2,500 人の市民が集まった（2024 年 9 月 19 日 東京・日比谷野音）

冤罪犠牲者の立場に立った法改正を 法制審の“逆流”を止めよう！

冤罪を生んだ側が、再審制度を論じる？

いま、誤った裁判から無実の人を救うための再審法改正が正念場です。議員立法として提出された改正案を、秋の臨時国会で成立させることが急務です。ところが、法務省の「法制審議会」では、冤罪当事者や市民の声がほとんど届かないまま、裁判官や検察官など、冤罪を生んできた側だけで議論が進められています。1つの論点に15分、1人の発言は2分——現実を直視した議論にほど遠いのが実情です。

冤罪犠牲者の苦しみに、寄り添わぬ発言

これまでに再審で無罪となった事件から浮かび上がった課題として、「検察の証拠隠し」や「再審決定への検察の不服申し立ての禁止」があります。しかし法制審の議論では、証拠開示については、再審請求人が提出した証拠に関連するものに限って開示を認める方向で議論がされており、むしろ証拠開示を狭める内容です。

この範囲で絞られれば、福井女子中学生殺人事件のように、大量の未開示証拠の中から検察の有罪立証と矛盾する捜査報告書が見つかるようなことが不可能になります。さらに検察の不服申立については、「誤った再審開始決定を是正する必要がある」という意見が飛び出しています。冤罪犠牲者の理不尽な苦しみに一步でも寄り添えば、そんな発想にはならないはずです。

世論の力で、国会議員連盟の改正案成立を

袴田事件や福井女子中学生事件のように、何十年もかけて無実を勝ち取った人たちの苦しみを、再び繰り返してはなりません。法制審の議論が、このまま法律に反映されてしまえば、再審制度を良くするどころか、逆に閉ざしてしまう危険があります。今、その“分かれ道”に立っています。国会議員連盟が提案している再審法改正案を国会で成立させるために、世論の力が必要です。署名にご協力ください。

弟の袴田巖は、無実の罪で 47 年 7 か月もの間、死刑囚として拘置され、精神を病みました。無罪放免となるまで 58 年闘ってまいりました。この間、国は何をしていたのでしょうか。死刑確定から証拠開示まで 30 年、再審開始決定後も検察官の抗告で真の自由までさらに 10 年を要したことは、人の命に関わる問題として許されません。再審法に不備があることは間違いありません。早急に改正をお願い申し上げます。巖が長く苦勞したことを、せめて法律の改正で役立ててくださるならば、私たちにとって、こんな幸せはございません。



弟・袴田巖さんを支えた
袴田秀子さん

法制審刑事法（再審）部会で述べた意見を要約（2025 年 5 月 30 日）

冤罪被害者の一刻も早い救済のために、再審法の速やかな改正を求めます
国会請願署名にご協力ください